

<映画を身近に。北近畿ロケ作品(京丹後市・宮津市)>

『映画 太陽の子』公開記念企画のご案内

福知山シネマ × 京丹後市 連動パネル展 開催!

映画
太陽の子
GIFT OF FIRE



京丹後市平海岸にて撮影のメインカット

このたび、京丹後市の平(へい)海岸で撮影された美しい海と白浜が登場する地元ロケ作品『映画 太陽の子』を、9月24日(金)より福知山シネマにて公開する運びとなりました。

この機会に、地元で暮らす私たちが映画を身近に感じられる素晴らしい体験を届けたいと思い、メモリアルな映画公開記念企画をご案内させていただきます。よろしければ、記事として取りあげていただけましたら幸いです。

2021.9.17 福知山シネマ 細川龍作

『映画 太陽の子』公開記念企画のお問い合わせ 福知山シネマ 細川まで



〒620-0037 京都府福知山市東中ノ町 28-1
TEL 0773-23-1249 FAX 0773-23-8335
MAIL cinemainfo@fukuchiyama-cinema.com

『映画 太陽の子』パネル展の京丹後市会場・ロケ撮影の詳細は 京丹後市観光公社 中江まで

一般社団法人

京都府北部地域連携都市圏振興社 京丹後地域本部

(通称: 海の京都 DMO / 京丹後市観光公社)

京丹後フィルムコミッション 担当 中江 学

〒629-3101 京丹後市網野町網野 367 アミティ丹後 1F

TEL : 0772-72-6070 FAX : 0772-72-0822

e-mail : m-nakae@kyotango.gr.jp



9/24(金) 福知山シネマにて公開

「映画 太陽の子」<映画を身近に。北近畿ロケ作品(京丹後・宮津)>

■作品介绍

かつて存在した“日本の原爆開発”——。その事実を基に、3人の若者の決意と揺れる想いを描いた300日の青春グラフィティ。

僕らは、未来を作っていると思ってた——。

1945年の夏。軍の密命を受けた京都帝国大学・物理学研究室の若き科学者・石村修(柳楽優弥)と研究員たちは、原子核爆弾の研究開発を進めていた。研究に没頭する日々の中、建物疎開で家を失った幼馴染の朝倉世津(有村架純)が修の家に居候することに。時を同じくして、修の弟・裕之(三浦春馬)が戦地から一時帰郷し、久しぶりの再会を喜ぶ3人。ひとときの幸せな時間の中で、戦地で裕之が負った深い心の傷を垣間見る修と世津だが、一方で物理学に魅了されていた修も、その裏にある破壊の恐ろしさに葛藤を抱えていた。そんな二人を力強く包み込む世津はただ一人、戦争が終わった後の世界を見据えていた。それぞれの想いを受け止め、自分たちの未来のためと開発を急ぐ修と研究チームだが、運命の8月6日が訪れてしまう。日本中が絶望に打ちひしがれる中、それでも前を向く修が見出した新たな光とは——?

■クレジット

【キャスト・スタッフ】

出演：柳楽優弥、有村架純、三浦春馬、田中裕子、國村隼、ピーター・ストーメア、イツセー緒方、山本晋也、三浦誠己、宇野祥平、尾上寛之、渡辺大知、葉山奨之、奥野瑛太、土居志央梨

監督・脚本：黒崎博「ひよっこ」「青天を衝け」音楽：ニコ・ミュラー『愛を読むひと』

主題歌：福山雅治「彼方で」配給：イオンエンターテイメント 本編上映時間：1時間53分

公式HPアドレス：<https://taiyounoko-movie.jp/>

©2021 ELEVEN ARTS STUDIOS / 「太陽の子」フィルムパートナーズ

●福知山シネマでの上映期間

・9/24(金)～10/21(木)まで

●上映時間

▽9/24(金)～9/30(木)

①10:00 ②12:15 ③14:30

▽10/1(金)～

劇場までお問い合わせください

映画公開記念イベント (主催：福知山シネマ、共催：京丹後フィルムコミッション、京丹後市観光公社)

「映画 太陽の子」公開記念 パネル展 (入場無料)

・福知山シネマと映画のロケ地の京丹後市が連携し、2会場で映画のパネル展を開催いたします。

●開催期間：2021年9月22日(水)～10月21日(木)まで 詳細は次ページにてご確認ください。

映画公開を記念した 映画関連企画

・当館での上映期間中、「映画 太陽の子」特別メイキング映像付き上映を行います。

※本編上映後に、約3分のスペシャルメイキング映像が流れます。

・福知山シネマでの映画公開を記念して、映画をご覧いただいた方に

【非売品】特大ポストカード(A5サイズ)を入場特典として配布いたします。

※先着・数量限定 ※右のポストカードを2種1セットで配布)



「映画 太陽の子」公開記念 パネル展 (入場無料)

●開催期間：2021年9月22日(水)～10月21日(木)まで

●会場：映画が上映される福知山シネマと、映画のロケ地・京丹後市の2会場で開催します。

第一会場：福知山シネマ 劇場ロビー

・住所：福知山市東中ノ町28-1 ・観覧時間：劇場開館時間から、19時まで

・お問い合わせ：TEL0773-23-1249

第二会場(★)：アミティ丹後1F(公益財団法人 丹後地域地場産業振興センター)

・住所：京都府京丹後市網野町網野367 ・観覧時間：午前9時～午後5時

・お問い合わせ：TEL0772-72-5261

(★)第二会場では、限定パネルと合わせて、石村修役の柳楽優弥さん、朝倉世津役の有村架純さん、石村裕之役の三浦春馬さん着用の、劇中衣裳と大型バナーも合わせて展示します。

※パネル展のご観覧は無料です。

※マスクの着用・アルコール消毒のご協力をお願いいたします。

主催：福知山シネマ 共催：京丹後市商工観光部観光振興課(京丹後フィルムコミッション)

共催：一般社団法人 京都府北部地域連携都市圏振興社 京丹後地域本部(京丹後市観光公社)

資料提供：イオンエンターテイメント

パネル展示内容 ※映画の裏側のさらに奥まで楽しめる！重層的な展示となっています

配給のイオンエンターテイメントさま・京丹後市さまの協力体制によって、全国でもここだけでしか見られない、貴重な展示の数々となっております(パネルだけで30点以上)。

地元映画ファンにとって、メモリアルで特別感のある展示となりますので、ぜひご期待ください！

- ①映画ポスター2種(ティザー・本ビジュアル)
- ②場面スチールパネル(配給提供、劇場限定の作品紹介パネル)
- ③メイキング写真(配給提供、京丹後の海のシーン撮影時の出演者の様子を写したパネル)
- ④ロケ地撮影写真(京丹後市提供、撮影の裏側の記録写真)(※)

▽京丹後市会場では、①～④と合わせてさらに特別な展示がございます→

- 劇中衣裳(主人公3人の劇中で着用された衣裳)
- 映画大型バナー(ロードショー劇場での宣伝告知用バナーポスター)

(※)京丹後市提供の記録写真では、撮影クルーの様子やロケ弁当など、撮影の裏側をロケ当日の裏話も交えながら紹介いたします。



こちらの衣裳が展示されます。

<映画を身近に。北近畿ロケ作品(京丹後市・宮津市)>

『映画 太陽の子』 公開記念企画 開催の経緯

●『映画 太陽の子』 福知山シネマ 映画公開の経緯

コロナウィルスの感染拡大、オリンピック、緊急事態宣言、めまぐるしく変わる社会情勢の中、慌ただしく過ぎて行った今年の夏一。

“時代に翻弄される状況”を強く実感するいま、戦争映画の枠組みを越えて、様々な面で示唆に富む本作を、ぜひ劇場で見ていただけたらと考えております。

※NHKで2020年8月15日放送の「太陽の子」は「80分のダイジェスト版」で、本作は1時間53分の完全版。NHK放映版とは視点も異なり、かなり印象の違う作品となっています。



●『太陽の子』 映画公開記念 パネル展開催の経緯

『映画 太陽の子』は、京丹後・宮津で撮影が行われた<地元ロケ作品>です。



柳楽優弥さん、有村架純さん、三浦春馬さんが出演された『映画 太陽の子』には、監督がこだわり抜いたロケ地、京丹後市・宮津市のエメラルドグリーンの「奇跡」の海と白浜が登場し、映画の印象を決定づける魅力的なシーンとなっています。

地元で暮らす私たちにとって、なじみある風景が、映画という視点で切り取られたとき、不思議な親近感を感じることでしょう。地元ロケ映画の良いところは、いち映画作品を越えて“私たちの映画”になるところ。今回、そんな映画の裏側まで楽しめる、ご当地ならではの映画公開記念企画として、福知山シネマと京丹後市が連動し、2つの会場でのパネル展を開催させていただきます。

コロナ禍の不安の中で、休日の外出もためられる時代ですが、映画の中で「時代に翻弄されながら、未来を語る若者たち」の姿に今を重ねながら、美しい地元の価値を再発見し、未来のために1日1日を前向きに生きる気持ちの一助になればと思っております。

※各会場、感染症予防を徹底して開催させていただきます。

参考資料

「映画 太陽の子」こだわり抜いたロケ地 京丹後の美しい海に注目のメイキング写真 - 映画 .com より

日本の原爆研究を背景に、時代に翻弄されながらも全力で駆け抜けた若者たちを描く「映画 太陽の子」のメイキング写真が披露された。京都・京丹後の美しい海を前に、柳楽優弥、有村架純、三浦春馬さんが撮影に臨む姿などをとらえている。

NHK 連続テレビ小説「ひよっこ」やNHK 大河ドラマ「青天を衝け」で知られる黒崎博が監督・脚本を担った本作。終戦記念日の8月15日（2020年）にNHK 総合で放送されたドラマ版とは異なる視点と結末が描かれ、柳楽が極秘任務に携わる京大生の科学者・石村修、有村が建物疎開で家を失い、修とその弟がほのかな思いを寄せる幼なじみ・朝倉世津、三浦さんが修の弟で、戦地で心に傷を負った軍人・裕之を演じた。



本日7月22日の海の日にちなみ、メイキング写真は修と幼なじみの世津、そして戦地から一時帰郷した裕之が、束の間の休息で海を訪れるシーンの撮影模様を切りとっている。悩みや葛藤を抱える3人が子どもの頃に戻ったかのようにはしゃぎ、友情を再確認する重要な場面となり、撮影の合間に楽しそうに過ごす3人の様子もとらえている。

このロケ地について、黒崎監督は「なかなか、これぞという浜辺が見つからなかったんです。別のエリアの海を探したこともあったんですけど、京都の海といえば京丹後の海。やっぱりその土地で探すのがいい」とこだわり抜き、スタッフが兵庫の近辺から京都を超えるあたりまで海岸線をしらみつぶしでロケハンした。

やっとの思いで、異国情緒思わせるエメラルドグリーンがかった独特なブルーをした京丹後の浜辺を見つけ出し、「日本の海の色じゃないブルーが出ていて不思議だなあと感じていたら、地元の方が『この時期じゃないと見られないブルーだよ』と教えてくれて、ラッキーだったなと思いました」と振り返っている。